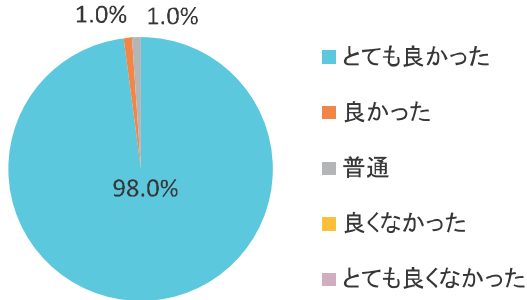


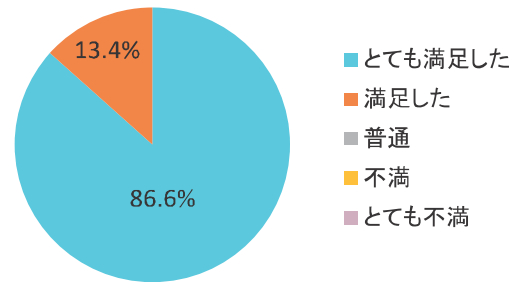
平成29年度 へき地校体験実習 事後アンケート (平成30年3月1日現在)

実施者：北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門
 実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配布
 実施期間：平成29年8月～10月
 対象者：107名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期〕履修生）

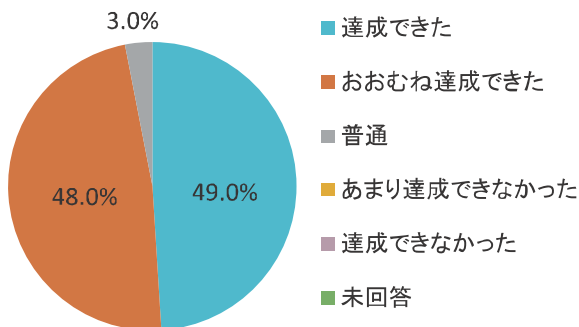
1. 実習に参加してよかったか



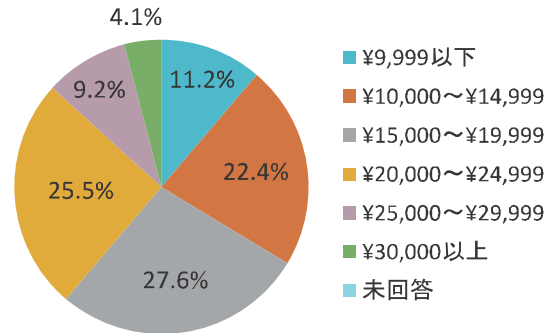
2. 実習の満足度は



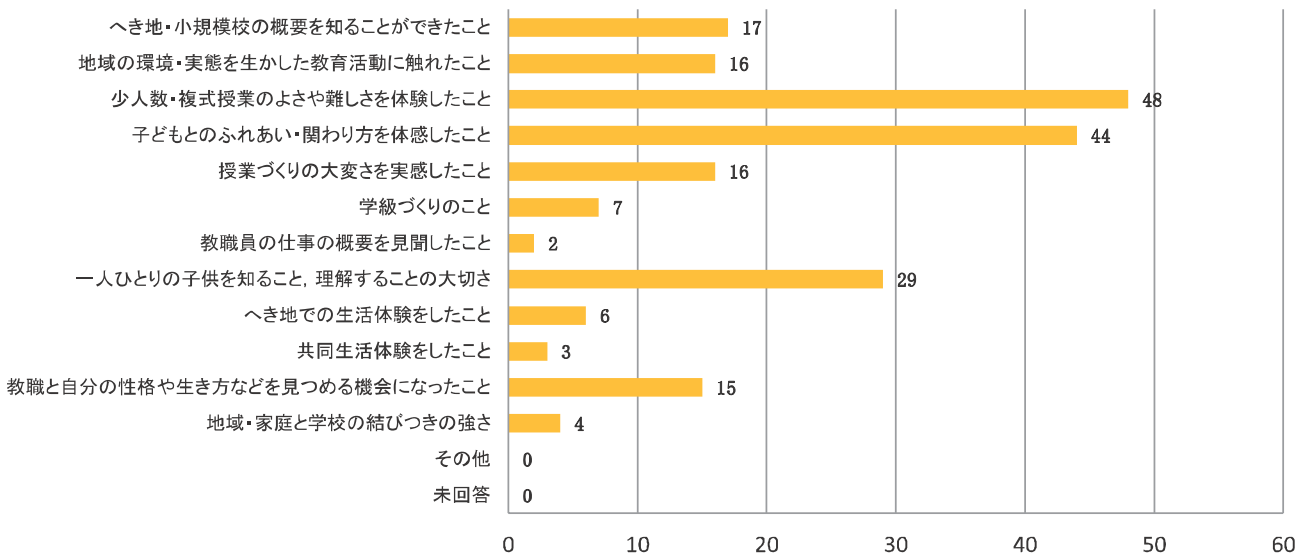
3. この実習で学びたかったことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど(1名2項目回答)



平成29年度 へき地校体験実習を終えて～受講生アンケート

1. 実習を終えた感想

- ・島でもう一度実習をすることができて、本当に良かったと感じている。今回も島の地域の人々と子どもたちの温かさに触れ、忘れられない5日間になった。先生も島で暮らす地域の人の一人であるということや、担任だけで学年の子どもたちを育てるのではなく、全教員で全校の子どもたちを育てていくことが島の教員の魅力だと思った。また、本当に豊かな自然が素晴らしかった。
- ・島の教師もいいな、と感じた。食べ物おいしいし、景色もきれいで、何より子どもたちが学年だけでなく、学校全体で関わって共同作業している姿が良かった。札幌ではなかなか見られなかった「たてわり班」の活動を通して、高学年はリーダーシップを発揮し、下の学年の子どもたちも進んで何かをしようとする姿勢を見ることができ、本当に感動した。
- ・実習を終えて最も印象に残っているのは授業づくりの大変さではなく、ご指導していただいた先生方や職員さんたちの温かさでした。無知な私に時間を割いて一緒に悩んでくれた指導担当の先生はもちろん、実習最終日の親睦会で将来についてや授業づくりについて相談に乗っていただいた先生のお話はとても自分のためになったと思っています。実習に行けてよかったです。
- ・2度目のへき地実習だったが、主免実習後の4年で行く実習はまた違う学びがあった。単式授業を1回、複式授業を3回と計4回も教壇に立たせていただいて、主免での32人学級で行った授業とは違った難しさを感じた。実際に自分が授業を行って初めて、わたりの感覚が分かった。児童との関わりや地域ならではの教育等の多くの経験をさせていただいたが、やはり授業の経験を多くさせていただけたことが、自分にとってより実りのある実習になったと感じている。
- ・改めて教師の素晴らしさや奥深さを感じることができた、実りある実習であった。先生方が子どもたちの成長や幸せになってほしいと願いながら仕事をしている様子を見ることができ、改めて強く教師になりたいと感じた。
- ・5日間の実習で、子どもたちと関わっていくことを大事にしたことで、児童がどんな行動をするのか、どんな発想を持っているのか、などを感じることができた。本格的な実習は初めてだったので、右も左もわからず深く学ぶことはできなかったかもしれないが、一人ひとりの児童と関わって、児童理解の仕方について学ぶことができた。
- ・毎日忙しく、実習前にたてた目標は途中から考えなくなってしまった。その目標は正直達成できなかったが、他に得たものは大きかった。授業づくりの大変さ、子どもたちと関わることの難しさ。一方でそれらのやりがいや楽しさ、喜びも体感できた。たったの5日間であるが、子どもたちの小さな成長を見つけることができた。もっと長いスパンでの成長の手伝いのできるのが教師という職の良さなのかなと感じた実習であった。
- ・指導案を書き上げて帰ると、旅館が閉まっていたり、宿泊所のガスが止まっていたりとハプニングもあったが、振り返ってみると、それもまた良い思い出の一つになったように思う。あとは、やはり子どもたちがとても可愛かった。人懐っこい児童が多く、毎日話したり、遊んだりするのがとても楽しかった。また、先生方も本当に良い人たちだった。体調の心配をしてくださったり、差し入れをくださったり、色々な面でお世話になった。
- ・一週間という短い期間に実習の要素が詰め込まれ、さらに共同生活もするので、体力をとんでも使う実習だった。しかし、人なつっこい子どもと過ごしながらへき地ならではの学習が見えて、楽しく学んでいくことができた。とても充実した実習で、行ってよかったと本当に思った。あえて、より充実させるにはどうすればよかったかをいうと、研究授業の大まかな構想を、実習が始まる前に考えておけば良かったのかなと思う。
- ・5日間しかなかったが、毎日実習生通信を出し、一人一人とたくさん関わり、中休み・昼休みはたくさん遊び、とても充実した実習だった。自力解決のときに教えた子はとても賢く、その子の取り組んでいる姿をじっと見て「待つ」時間が多く、子どもの反応を待つ大変さと大切さを改めて学んだ。1対1であったので、一人の子に対してどのような反応をするか（うまくできなかつたらどうするか、うまくできすぎたときにどうするかなど）真剣に考えることができた。

- ・今までとは全く違う環境の中で6泊7日というのは、初日の段階で先が思いやられる気持ちになった。しかし、適応していくと環境の変化にむしろ楽しさを感じた。満点の星空を見ることができたのもかつてない経験であった。複式学級がある学校に行ったのは初めてであり、児童数が少ない故に教室が広々と感じたのは新鮮であった。学校全体の様子を1日中見ることができ、自分が先生になる姿をよりイメージするようになった。
- ・5日間あっという間でした。前の時よりも授業をさせてもらったからかもしれませんが、時間が短く感じました。なので、行く前の準備の段階がとても大事になると思います。予め、単元がわかれば、先に目を通すだけでも違うと思えますし、きっと最後に手紙を渡すと思うので、下準備はできるところまでやった方がいいと思いました。それができたらもっと授業について考えられたし、子どものことを実習生同士でもっと語り合えたかなと思いました。
- ・小さな学校で教員をしている先生方の姿に感銘を受けた。子どもの様子などの情報を共有して、学校全体で子どもを見守っていて、自分が教師になったときにも温かい学校にしたい。
- ・実習では副免実習が中学校だったこともあり、いきなり小学校で子どもと関わることに差を感じてしまった。しかし、少人数の学級だったことで、子ども一人一人の様子を見て、名前を覚えることは早くにできた。全校の名前を覚えて教師と子どもの距離、それから子ども同士の距離が近いのは、へき地校の良さだと思えることができた。
- ・実習を終えて、より一層教師になりたいという気持ちが強くなった。もっと色々なことを勉強しておけばよかったなとも思った。子どもたちとたくさん過ごす中で、子どもたちのことが大好きになった。
- ・この実習を終えて、予想以上に様々なことが経験できたので、来年の本実習への心の準備が少しできた。また、実際に子どもたちを相手に授業することで生の反応を見ることができたり、今後の授業作りの課題を見つけることができたため、実りの多い実習となった。
- ・最初はすごく緊張していたが、職員の方々や児童が優しく接してくれたため、すごく楽しい一週間となった。「へき地はあまり良くない環境」という印象が実習前はあったが、この実習によって「へき地で過ごしている子どもたちが羨ましい」という思いに変わり、へき地で働きたいという思いへとさらに変化した。
- ・大変なことが多く、慣れない生活環境でくじけそうになることがたくさんありました。しかし、毎日の子どもたちの笑顔に支えられて終えることができました。本実習では体験できないような地域行事等の活動や、人生で初めての教壇実習など、たくさんの活動に参加させていただき、一回り大きく成長できたように思いました。今後の進路を考える上でも貴重な一週間となりました。
- ・実習は大変だったが楽しかった。最も苦勞したことは、授業作りだった。自分では最高の出来だと思っけていても、担当の先生に見せると欠点が山ほど見えてくる。そして、頑張った分だけ生徒も応えてくれたことが何より嬉しかった。こんなに授業が楽しいと感じたことは初めてだった。
- ・校長先生、教頭先生もおっしゃっていた通り、行事の多い週の実習で、こんなに楽しくてもいいのだろうか心配になるくらい楽しく充実した実習だった。児童たちはみんな明るく無邪気でとても可愛く、人見知りもしないので、実習初日から積極的に話しかけてくれたり、遊びに誘ってくれて嬉しかった。また、初めて授業をすることができ、反省点は多いがとてもよい経験になった。
- ・決して楽なものではなかったが、かなり自分のためになる有意義なものになった。一緒に行った人とも仲良くなることにも繋がったし、教師を目指す気持ちがさらに強まった。また、へき地校の特性を活かした授業を見ることができたし、へき地の温かさを知ることができたので、貴重なこの体験をできて本当に良かった。
- ・初めての实習で、「先生」としてどうふるまえばいいのか、授業はどのように行うのか不安ばかりだったが、多少楽観的であるほうが楽しく成長していくことができることを学んだ。「来年の本実習では教師の大変さ、つらさを学べるから、今回は教師の楽しさ、子どもの可愛さを感じられるくらいでいいよ」と言ってもらい、本当に楽しい体験をさせてもらった。

- ・一週間はとても短く、もっと期間が長ければ良いのと思うほどとても充実して、楽しい実習となった。5日間のうち4日間は授業をする機会も与えてくださったので、良い経験となった。この5日間で、取るつもりの無かった小学校免許もやっぱり取ろうと決意してしまうくらい、自分にとって、自分を見つめ考え直す機会になったと思う。
- ・実習校の子ども達、先生方に出会えて、本当に幸せだと思う。最初は単位をもらうためだけに行ったのが正直な気持ちだったけど、単位なんかいらなから、本当にここにずっといたいと思える1週間になった。教職の素晴らしさ、子どものために頑張ることの楽しさなど1週間じゃ足りないぐらいのことを経験できた。へき地の素晴らしさや、一方で課題を見つけることもできて、充実した実習になった
- ・充実した1週間だった。1週間しかなかったのがもったいないと感じた。小中併設校だったので、お願いして中学校の授業を見せてもらうことができた。短い間で、小学生がこんな中学生になるのかと成長の過程を見ることができたように思った。最終日、授業研終了後、次回の授業ではこうしよう、といつものように反省している自分に気づき、もう次がないと思うと悔しくてたまらなかった。土日で練ってゆっくり考える時間がなかったのが本当に惜しい。是非もう一度授業がしたいと思った。
- ・実習前は、中学校主免ということもあり、中学校のへき地校に行きたかったのに、小学校になってしまい残念に思っていた。しかし、実際に行ってみると、児童たちのまっすぐな目や純粋な心に感動し、行って良かったと思った。興味がないものにも、一度は触れてみないとわからないと思った。
- ・5日間という短い期間ではありましたが、得られたものはたくさんありました。その中でも特に感じたことは、教師は子どもたちが輝く瞬間にたくさん立ち会えるということです。子どもたちの成長スピードは凄まじいです。その成長の手助けをしたり、一緒に頑張ったりすることが教師としての役目ではないかと思います。とても充実した5日間でありました。
- ・初日のお祭りや学校祭の様子を見て、地域と学校が密接に結びついて行事を盛り上げていることがわかりました。生徒とのコミュニケーションについてはあまり自分から積極的に話しかけに行くことができなかつたのが反省点となりました。
- ・1週間という短い間でしたが、来年に向けて役立ちそうなことや課題を見つけることができ、本当に有意義な時間でした。実習の記録をつけるのも大変でしたが、今回の実習を振り返るのに大切だと感じることができました。また、学校経営は生徒との信頼関係があって成り立つのだと、少人数のへき地だからこそ学ぶことができたと思いました。
- ・子どもたちの温かさに毎回元気をもったり、励まされたりしており、最終日には泣きそうになるほどの気持ちにさせてくれる子どもたちには、いつか恩返しをしたいと感じた。
- ・今まで自分が行っていたフィールド研究の学校とは雰囲気は全く異なる学校で、新鮮な気持ちで実習に臨むことができました。地コミュや畑学習など学習の多くがその学校独自のもので身になるものばかりでした。
- ・目標としていた「へき地校、小規模校の概要をつかむこと」「子どもとの距離感」について、目で見て学ぶことができたと思う。先生方がとても親切だったため、疑問をすぐに解決できたり、教壇実習になんとか間に合うよう指導いただいたりすることができた。
- ・学校生活も宿泊生活も本当に充実していた。初めての教壇実習ということもあり、不安でいっぱいだったが、先生が丁寧に指導して下さり無事終わることができたので良かった。児童に「先生は本当に先生になれる！」と言われたときは嬉しかったし、頑張ろうと思えた。今後のためになる5日間だった。
- ・子どもや先生の動きを間近で見ることができて、先生が働く場所のイメージができるようになった。へき地ならではの良いところや難しいところを感じることもできたし、実際に授業をすることができたのは、本当に自分のためになったと思う。職場の人間関係の良さが仕事に良い影響を与えらと思った。

- ・主免実習の前に実際に現場で授業ができるということは大きかった。大学の講義で指導案を書くことはあっても、それで実際に授業をするということではなかったので、いい経験になったと思う。フィールドではわからない先生と子どもの関わりや先生方の1日の動きを知ることができた。
- ・複式授業はとても大変だということが分かった。授業の準備を見通しをもってすすめなければ、授業はきっとできなかつたと思う。そのことを教えて下さった指導教官の先生に感謝したいと思う。
- ・少人数だから楽！みたいなことは全くなかったです。授業が倍あって大変でしたが、その分、力になった気はしています。少人数学校なので学校全体の子どもと関わることができたのがよかった点です。あと、人によっては共同生活がづらいと思います。
- ・地域によって、学校によって、その雰囲気は全く違った。主免実習で落ち込んでいた私にとってへき地実習は教員のイメージをガラリと変えてくれた。また、「共同生活」というのも自立に向けて経験できて良かった。
- ・大規模校とは違い、配属学級関係なく、子ども一人ひとりとたくさん関わることができた。その分、物的環境、人的環境でメリハリをつけることが大切だと分かった。2学年をわたるのは難しく、どちらの学年にも気を配って授業をするのはとても大変だと感じた。しかし、先生からご指導いただいたことを意識して実践していく中でまだまだ課題だと感じることはたくさんあるが、楽しく実習をすることができ、思い出に残った。
- ・実際に自分で複式授業をすると、指導案を作成することや、如何に「わたり」と「ずらし」を行うか考えることがとても難しかった。また、一方の学年に時間をかけすぎてもう一方の学年が手持ちぶさたになってしまった時もあり、時間配分にも苦労した。しかし、上手く授業を通せた時の達成感を味わうことができたり、児童一人一人の姿が見えやすかったので、複式授業の魅力をたくさん感じるすることができた。
- ・実習を終えて、へき地教育の良さを心から感じるすることができた。今まで、複式授業のやり方や方法のみを学んでいたの、人間関係や優しさを身をもって感じるすることができた。また、小さな地域だからこそ、地域と学校のつながりが深いという事も学んだ。また、学校の小中連携についてや、人数が少ないため教務を教諭が担任と兼用していることなど組織について学ぶこともできて良かった。
- ・とにかく複式の授業は難しかったです。子どもの反応を見ながら直接・間接を臨機応変に対応していかなければならないことに加え、時間配分の難しさも学びました。授業ではやっぱり子どもたちの頑張りに救われ、子どもたちとのやり取りによって作られていく授業の面白さを感じました。